

# 2024 JFFID 日本代表候補合宿 [マッチレポート] VS さくら清修高校

日時	2024年11月30日 9:30				試合形式	35分×3				
会場	さくらスタジアム				ピッチ状態	天然芝				
日本代表			2	0 1set 1 0 2set 0 2 3set 1	2	さくら清修高校				
警告・退場	3set	2set	1set	チーム合計			1set	2set	3set	警告・退場
	13	2	3	18	シュート	18	4	12	2	
	1	7	4	12	GK	10	0	5	5	
	8	0	2	10	CK	4	1	3	1	
	3	2	1	6	直接FK	4	0	2	2	
	0	0	0	0	間接FK	3	3	0	0	
	0	0	0	0	(オフサイド)	3	3	0	0	
	0	0	0	0	PK	0	0	0	0	

## 【日本】

1 set



2 set



3 set



## 【さくら清修高校】

1 set



2 set



3 set



## 【得点経過】

### ■ 1 s e t

10分[清修] ペナルティーエリア内でのDFとGKの連携ミスからボールを奪い、NO.88がシュート。

### ■ 2 s e t

得点なし

### ■ 3 s e t

20分[清修] コーナーキックでニアに上がったインスイングのクロスボールに対して、GKのパンチングミスをNO.47がワンタッチシュート。

25分[日本] 相手コート中央付近の右サイドからの草田のスローインで相手の背後を取り、そのボールに反応していた大久保がペナルティーエリア内にドリブルで侵入し、左足のシュート。

30分[日本] センターラインを5mくらい越えた左サイドで犬塚がボールを受け、対角への浮き球で背後を取った小川にパス。ファーストタッチでペナルティーエリア内に侵入。相手を引きつけてから、ペナルティーエリア中央に走り込んできた大久保にパス、コントロールから右足シュート。

## 【交代】

### 1 s e t

28分[清修]	IN	NO.27	⇔	OUT	NO.72
28分[清修]	IN	NO.71	⇔	OUT	NO.30
28分[清修]	IN	NO.96	⇔	OUT	NO.26

### 2 s e t

15分[日本]	IN	梅村	⇔	OUT	松野
20分[清修]	IN	NO.57	⇔	OUT	NO.90
20分[清修]	IN	NO.22	⇔	OUT	NO.51
20分[清修]	IN	NO.23	⇔	OUT	NO.75
20分[清修]	IN	NO.39	⇔	OUT	NO.96
20分[清修]	IN	NO.33	⇔	OUT	NO.66
20分[清修]	IN	NO.87	⇔	OUT	NO.31
20分[清修]	IN	NO.28	⇔	OUT	NO.88
20分[清修]	IN	NO.41	⇔	OUT	NO.77
20分[清修]	IN	NO.3	⇔	OUT	NO.27
20分[清修]	IN	NO.47	⇔	OUT	NO.71
33分[日本]	IN	松野	⇔	OUT	犬塚

### 3 s e t

3分[日本]	IN	佐藤	⇔	OUT	大野
19分[清修]	IN	NO.24	⇔	OUT	NO.41
19分[清修]	IN	NO.44	⇔	OUT	NO.28
19分[清修]	IN	NO.26	⇔	OUT	NO.87
19分[清修]	IN	NO.72	⇔	OUT	NO.23
20分[日本]	IN	犬塚	⇔	OUT	原
25分[清修]	IN	NO.98	⇔	OUT	NO.47
31分[日本]	IN	梅村	⇔	OUT	奥田

## ゲームコンセプト

全員守備・全員攻撃

### 攻撃

- ①中央突破とサイドからの攻撃  
背後・ワンツー・クロスの入り方（3つの場所）
- ②相手状況に応じたビルドアップ  
1タッチ・サポート
- ③パス・コントロールの質

### 守備

- ① 1 v s 1で勝つ（ボールとマークの同一視・粘り強く）
- ② ゾーンごと、数的状況における守備目的の違いの理解とプレー

### 切り替え

攻撃→守備：ボールへの素早い寄せ／バランス

守備→攻撃：・カウンター

- ・同サイドに出ていく
- ・逆（中央）サイドに出ていく

## ゲーム内容

さくら清修高校と対戦した。一試合を通してのボールポゼッション率は、日本49%、さくら清修高校51%と、ほぼ同じであった。シュート本数も日本・さくら清修高校ともに18本であった。前半10分、ディフェンディングサードでの相手スローイング（相手の右サイド）から、ボールを受けたNO.66がワンタッチパス。そのボールを受けたNO.88がドリブルでペナルティーエリア内に侵入。福原が体を入れて対応していたが、荻野との連携不足（コミュニケーション不足）もあり、NO.88にボールを奪われ失点。その後は、プレーエリアや人数に応じて、ボールを奪いにいくところ、ゴールを守るところと状況に応じてプレーを選択しながら粘り強く守ることができていた。攻撃に関しては、ワンタッチ、ツータッチパスでテンポ良くボールを前進させることができる場面もあったり、3人目の動きや相手の背後を取る動き、相手を観て、観ておいてポジションを取っていたりするシーンも多くあった。また、ゴールキックやゴールキーパーを含めたビルドアップにもトライする場面もあった。逆に、中盤で奪ったボールを同エリアで失ったり、奪った後のパスやラストパス、シュートの精度に欠けたりするプレーも見受けられた。3セット目の20分に失点。コーナーキックからニアに上がったインスイングのクロスボールに対して、GK荻野のパンチングミスのこぼれ球をワンタッチシュートで決められた。しかし、その5分後、相手コート中央付近から、草田のスローインで相手の背後を取った大久保がペナルティーエリア内にドリブルで侵入し、左足のシュート。冷静にゴール左隅に決める。そして、その5分後、犬塚からの対角への浮き球パスで背後を取った小川がファーストタッチでペナルティーエリア内に侵入。相手を引きつけてから、ペナルティーエリア中央に走り込んできた大久保にパス。ボールを受けた大久保が右足でゴールに流し込み得点。同点に追いつく。その後、決定機を作ったが決めきれず、2対2で試合終了となった。